ご挨拶

此度、神遊は十周年を迎えることが出来ました。偏に皆様方の御支援によるものと厚く御礼申し上げます。懸命に稽古をし舞台に挑んだ苗木の二十代。数々の舞台と先輩方に支えられ経験を積んだ若木の三十代。そしてその木の花を咲かせることが出来るか、大切な四十代へといよいよ突入します。漲る力を外ではなく内に向け、能楽と向き合ってゆきたいと考えております。花を咲かせるには太い幹と空に伸びる枝々、陽の光も水も必要です。皆様方の厳しい目、諸先生方の御力添え、その中でしっかりと根を張り、真直ぐに伸びて行きたいと思っております。今後とも更なる叱咤激励の程、宜しく御願い申し上げます。

神遊

神遊十周年記念特別公演　番組

舞囃子　融　酌之舞
観世銕之丞

大鼓　柿原　崇志　太鼓　観世　元伯
小鼓　観世新九郎　笛　一噌　隆之

狂言　鱸庖丁
シテ（伯父）　野村　萬斎　アド（甥）　高野　和憲　後見　深田　博治

あらすじ

「鱸包丁」すずきぼうちょう
伯父（シテ）の仕官の宴席にだす鯛を求めてくるように言われていた甥（アド）は、用意をしていなかったので獺（オソ・かわうそ）が食べてしまった、と嘘をつく。嘘を見抜いた伯父は、ならば口先だけでもてなして追い返そうと、鱸料理の様を仕方話をし、最後には鯛を獺が食べたように、鱸はホウジョウ（法定・嘘）という虫が食べてしまったので帰れと叱る。

一調　放下僧
観世喜之　小鼓　曽和　正博

能　卒都婆小町
シテ（小野小町）　観世　喜正
ワキ（旅の僧）　森　常好
ワキツレ（供僧）　舘田　善博
後見　五木田三郎　観世　喜之
大鼓　柿原　弘和　小鼓　成田　達志　笛　一噌　隆之
地謡　奥川　恒治　柴田　稔　中所　宜夫　浅井　文義　駒瀬　直也　観世銕之丞　弘田　裕一　岡田　麗史

「卒都婆小町」そとばこまち
高野山の僧（ワキ）が都への途上、摂津国阿倍野の辺りで休んでいると、一人の乞食老婆（シテ）がやってきて、百歳に老いた自分の身を嘆きながら、道端の朽ち果てた卒塔婆に腰掛ける。僧が卒塔婆は仏体であるといって咎めるが、老婆は素直には聞かず、かえって僧の問いかけに仏法の奥義で反論をする。まことに悟った老婆であると僧は感心し、頭を地につけ三度礼拝をすると、老婆は「極楽のうちならばこそ悪しからめ そとは（外は・卒塔婆）何かは苦しかるべき」と戯れ歌を詠んで茶化す。僧が驚いて名を問うと、自分は小野小町のなれの果てであると明かして今の境涯を嘆くが、そのうち狂乱状態になって僧に物乞いをする。これは小町に恋慕して九十九夜通ったあげく、悶死した深草の四位の少将の怨霊が憑いての狂乱であった。小町は烏帽子と長絹を身につけた少将の装いで百夜通いの様をみせるが、やがて我にかえり、花を仏に手向けて、真の悟りを開こうと願う。
いわゆる〈老女物〉とよばれる曲の中でも、前半の問答、後半の狂乱と変化に富んだ見ごたえのある一曲に神遊が挑戦いたします。

神遊
KAMIASOBI
the10th Anniversary
SOTOBAKOMACHI

観世銕之丞

観世喜之

森常好

野村萬斎

曽和正博

成田達志

一噌隆之・神遊

観世新九郎・神遊

柿原弘和・神遊

観世元伯・神遊

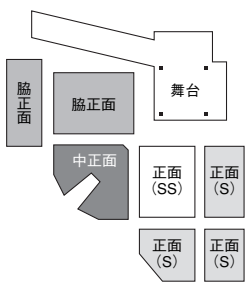
観世喜正・神遊

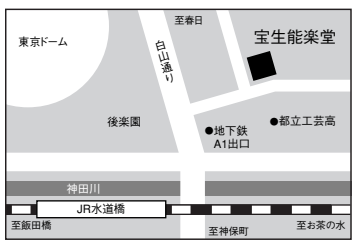
平成19年2月24日（土）午後12時30分開演（12時時開場）　水道橋・宝生能楽堂

入場料（全席指定）正面（SS）席 10,000円／正面（S）席 8,000円
脇正面席 6,000円／中正面席 5,000円（club神遊会員と学生券は割引があります）

発売日 12月18日（月）（club神遊会員は別途に優先予約日をご案内しております）

お問合せ・お申込み：**神遊 03-5227-1830**（TEL&FAX）
mail@kamiasobi.com　http://www.kamiasobi.com
電子チケットぴあ 0570-02-9988
（Pコード予約）0570-02-9999（Pコード:373-984）　@ぴあ http://t.pia.co.jp





JR線道橋駅（東口）都営地下鉄三田線水道橋駅（A1出口）
東京都文京区本郷1-5-9 TEL.03-3811-4843（代）